

# 第37回 戦国肥後国衆まつり



2月9日(日)和水町多目的広場で第37回戦国肥後国衆まつりが開催されました。

寒空の下での開催となりましたが、町内をはじめ県内外からも多くの来場者が訪れ、賑わいをみせました。

祭は三加和地域の保育園による出し物で幕を開け、神尾保育園の「鼓笛・ダンス」あおば保育園の「舞踊」春富保育園の「Y Y体操」と、園それぞれの特徴あるステージに、来場者は見入っていました。

メインイベントである「武者行列と国衆一揆の再現」では、鎧兜をまとった総勢85人の勇壮な武者たちが入場すると、会場は一気に緊迫した空気に包まれました。鉄砲隊の撃ち合いを皮切りに、戦国絵巻さながらの壮絶な戦いが再現され、来場者はかたずを飲んで見守っていました。

他にも、すずしろ会による「紙芝居」や青年団の「肥後にわか」、商工会青年部による「戦国わらじ飛ばし大会」など多くのステージイベントが行われました。また、今年の修羅レースには情報番組「テレビタミン」も参戦し、会場を沸かせました。

最後は、お楽しみ抽選会と紅白餅投げで締めくくられ、終始盛り上がりしました。

一揆の再現の様子

## 南蛮毛物語

和水町上和仁地区には「南蛮毛」という字名があり、400年以上も前に「南蛮娘」が住んでいたという伝承話がある。

「南蛮娘マリア」は、豊後の国キリシタン大名、大友宗麟により和仁人鬼親宗に出会い、和仁田中城での生活を送ったが、高温多湿な気候と生活習慣の違いから1年足らずで亡くなってしまった。



## 肥後国衆一揆 『田中城の戦い』

天正15年(1587年)豊臣秀吉の九州平定により肥後の領主となった佐々成政。成政が行った検地などの強引な政策に抵抗して肥後各地の国衆たちが起こした一揆が「肥後国衆一揆」である。

これに激怒した秀吉が、九州支配の今後の見せめとして、筑前・筑後の大名に命じて攻撃をかけ、肥後各地の国衆を滅ぼしていくなか、和仁氏は辺春氏とともに、田中城に籠城して抗戦した。小早川秀包を総大将とする安国寺、立花、鍋島などの1万の大軍に対し、1千あまりの軍勢で約2か月間を戦い抜いたが、ついに落城した。

秀吉はこの一揆後、全国に『刀狩令』を発布したといわれている。

これが今なお日本歴史上大きく位置づけられている『田中城の戦い』である。



イベントや会場の様子